

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902104		
法人名	日総ふれあいケアサービス 株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 花みずき		
所在地	旭川市神居7条18丁目377番地		
自己評価作成日	平成27年10月3日	評価結果市町村受理日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階 ホームの周りの環境は自然が多く、夏のお天気の良い日は、玄関前のベンチに座り、鳥や、虫の声を聞き、綺麗に咲いている花の手入れを行いながら、外気浴を兼ねて、ゆっくりとした時間を過ごしていただくよう努めています。冬は、隣接されているスキー場での人の動きを楽しめることができ、時には、職員の子供達がスキーをしている場面も見られ、職員と入居者様との会話ははずまれ、笑い声も多く聞かれています。日々、一人ひとりのペースで過ごしていただき、得意な分野での活動等も、意欲的な動作が維持していけるよう関わりながら生活の中で、笑い声が聞かれ、笑顔がみられる日々が送れるよう支援をしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanite=true&JigrosyoCd=0192902104-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム 花みずき」は、旭川駅から車で10分程の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。ユースホテルを改築した建物は、居間と食堂が独立した開放感のある広々とした造りになっている。町内清掃や夏まつりなどの地域行事で住民と交流を深めたり、体操や歌の地域ボランティアが定期的に訪問するなど地域に根差した事業所となっている。基本理念に沿って、計画作成担当者を中心に全職員でユニット毎にフロア一理念を作成し、利用者の状態に合わせて定期的な見直しを行っている。家族の意見や本人の思いを汲み取りながら適切な介護計画を作成し、毎月、全員の短期目標とサービス内容に沿って話し合いを行いながら介護計画の見直しに活かしている。毎月発行している利用者の受診状況と様子を伝える「個別報告書」は、家族の安心感に繋がっている。全利用者が以前からのかかりつけ医を継続できるように配慮し、主治医と連携して適切な医療が受けられるように支援している。職場関係の知人や同級生が来訪したり電話で話しをするなど、馴染みの方との交流も継続して行われている。計画作成担当者は、職員の意見を反映させながらコミュニケーションを深め、全職員で日々笑顔の絶えない温かなケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を取り入れた理念に基づき、職員も理念カードを携帯し、日々、努めており、H27年度は、各フロア理念を改め、その理念に沿って努めています。	「なじみの地域で、想いのままの暮らしを大切にします」という基本理念を基に、ユニット毎にフロア理念を作成している。利用者の状態に合わせて定期的にフロア理念を見直し、ミーティングや地域行事に参加する時にも全職員で再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内清掃や夏まつりなどの参加をさせていただき、地域の方のボランティア来訪により、歌や体操に取り組んでいます。	利用者と一緒に町内清掃に参加して、焼き肉の準備なども行っている。事業所のクリスマス会に地域住民が参加したり、定期的に体操や歌などの地域ボランティアが来訪している。今後は、子供達との交流が増やせるような働きかけを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域の方や、包括支援センターの職員の方と、認知症に対する理解が得られるよう、話し合いをもつことで、地域の方の理解も深まってきたように思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センターの職員、町内の役員の方、ご家族様が参加され、日々の活動報告や、地域での活動など意見交換をしています。また、町内の方にも、避難訓練に参加していただき、意見など伺っています。	家族会の会長などが参加して、活動報告や外部評価結果報告、避難訓練などを行っている。避難訓練時には、防災システム会社社員なども参加している。全家族に会議案内と議事録を送付しているが、家族の参加は少なくなっている。	テーマを記載した会議案内を送付するなど、参加出来ない家族の意見も事前に聴き取り会議に反映できるような取り組みを期待したい。また、質疑応答などの会議内容が分かるような、更なる議事録の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へは、ホーム内での事故があった時の報告と、介護保険に関する相談をさせていただいています。包括支援センターの研修には、ほとんどの職員が参加できるようにしています。	計画作成担当者は、介護保険の更新申請や生活保護を受けている利用者の相談などで市役所を訪問している。生活保護課の職員が来訪した時は、利用者の状況を報告しながら相談する事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、1ヶ月に1回のミーティング時に話し合いを行いながら、研修にも参加をすることで、職員の認識を深めることができ、身体拘束が無いよう努めています。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束マニュアルを作成している。毎月事例に沿って学びを深め、拘束に繋がらないような対応を検討している。「禁止の対象となる具体的な行為」11項目についても、年1回は全職員で再確認して更に理解を深めていきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加することで、日頃の自分の介護の仕方を振り返ることができ、防止について、職員から、多くの意見も聞かれました。職員同士が注意し合える雰囲気作りにも、心掛けています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修参加の声かけもあり、参加者から、参加できない職員への資料配布と共に、研修内容の発表があり、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を十分に説明し、契約後も不明な点があれば、説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気兼ねなく、意見がいただけるよう、意見箱の設置をしています。	来訪時や電話で利用者の様子を話し、家族の思いを聴き取るようにしている。家族の意見は、支援経過に記録して情報を共有している。今後は、家族からの些細な意見や思いを個別に記録し、更に家族の思いに寄り添っていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間はもちろん、時間外、ミーティング等の際にも、意見を聞く機会を設けている。	ミーティングに参加出来ない職員の意見は事前に聴き取り、全職員の意見が反映できるようにしている。本部に依頼する備品購入や休憩時間の変更などにも職員の意見が活かされている。今後は、定期的に職員と個人面談したいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務については、休みの希望と時間帯の希望を取り作成し、休憩もゆとりと取れるよう、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修には、勤務の不安なく参加できるようサポートしています。法人内でも、経験年数に応じた研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内で、管理者が集まったの勉強会や、地域の同業者施設の集い、地域包括主催のグループホームの集まりなど交流にも参加しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より、信頼関係の構築に努め、ご家族様やご本人様が入居に際し、不安のないように何度も面接を行ったり、ホームの様子を見に来て頂いたり、ご自宅へ訪問をし、お話しをさせていただいています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度も面接を行ったり、ホームを見学していただいたり、入居前のご家族様や利用者様の不安を少しでも取りのぞけるように、配慮をしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様とご家族様のお話しを伺った上で、早急な対応が必要なケースなどを見極め対応できるように努めております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事、出来ない事の見極めを職員間でも情報交換をするようにし、その上で、ご本人様の出来る範囲で、お手伝いをお願いしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランには、ご家族様から頂いたご意見や、アドバイスを活用させて頂いています。また、プランだけではなく、日常的な事も、アドバイスを頂いております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者には、必ずお名前を書いて頂き、後日、ご家族様へお伝えしています。また、帰宅の際には、ご本人様とお見送りをさせて頂き、また、いらして頂けるよう、声かけをしています。	宗教関係や仕事関係、同級生などが来訪したり電話で交流を継続している。携帯電話で、自由に知人や親戚などと話しをしている利用者もいる。家族と一緒に馴染みの美容室やお墓参りに出かけている。近隣のスーパーに職員と出かける事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、お手伝いを通じて、利用者様同士も交流ができるよう心がけています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動や転居時にも、必要な情報を提供し、利用者様が、新しい所に移られても、これまで通りに過ごしていただけるよう努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活状況や、趣味嗜好を、ご本人様、ご家族様より伺い、ご本人様の意向に沿った生活をしていただけるように、ご本人様本位の検討を常に行うようにしています。	日常のケアや会話から思いや意向を把握しているが、難しい時は以前の思いなどを参考に家族と相談して対応を検討している。「焦点情報」を6か月毎に更新して、新しい情報を蓄積している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーより、ご本人様の情報をいただき、職員間で、情報を共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に、毎日の様子を記入し把握し、個々の利用者様にあった生活が送れるよう努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、介護計画の評価を行い、職員で話し合い、各職員で、計画を作成しており、その計画をケアマネジャーがまとめ、介護計画を作成しています。	毎月のミーティング記録や3か月毎のモニタリングシート、カンファレンス記録を基に、担当職員と計画作成担当者を中心に全職員で6か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画を意識して介護記録を記入しているが、まだ十分とは言えない。	介護計画の見直しに活かせるように、短期目標やサービス内容に沿って具体的な変化や課題を記入するなど、更なる介護記録の充実を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や変化があれば、必ず記録に残し、特別な変化や、大切な内容の記録は、ペンの色を変えて下線を引き、各職員がわかりやすいよう工夫をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や、外泊の希望があれば、すぐにお受けし、家族団らんを楽しんでいただけるようにしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居された後も、なじみの関係が保てるよう、かかりつけ医の継続利用をしていただけるようにしています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医との関係を大切にしており、入居後も、かかりつけ医を主治医にされています。	全利用者が、以前からのかかりつけ医を継続している。専門医の受診などに家族が同行する場合は、口頭やメモ書きで状態を伝えている。支援経過に記入している受診内容は、今後「受診記録」としてわかりやすく整理したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態を把握し、異常の早期発見時、すぐに報告し、相談もできるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報は、医療機関へ情報提供を行い、相談員や看護師と連携をとり、情報交換しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の思いや希望を伺いながら、医師や看護師と相談のもと対応をしていきたいと思っています。	指針を作成して、利用開始時に説明している。経口摂取が出来なくなった場合や常時医療行為が必要になった時は、事業所での対応は難しくなる旨を伝えている。事業所の方針が分かりやすいように、「看取りの指針作成」項目の文言について検討する事も考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急の訓練、研修に参加し、緊急時の対応手順を心得ています。連絡体制も整っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定での避難訓練を年に2回行っています。日中、夜間想定で行い、地域の方も参加されて協力を得ています。	運営推進会議時に、昼夜の火災を想定して年2回避難訓練を行っている。内1回は、消防署の協力を得ている。災害備蓄品や防寒用品などは整備しているが、職員の救急救命訓練の受講は、新人採用時のみになっている。	全職員が、定期的に救急救命訓練を受講するよう期待したい。また、具体的なケアに沿って、地震時の対応について全職員で話し合うよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、1人1人の人格を尊重し、声かけ、対応に気を配っています。	職員は、利用者の尊厳を傷つけないように排泄に関して直接的な言葉を使わないようにしている。話し合いなどはプライバシーに配慮して、居室番号を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな時も、できるだけ入居者様の希望を1番に考え、自己決定ができるよう促しに心がけ、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、入居者様、1人1人の想いを大切に、実現できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服えらび、お化粧等、身だしなみに気を配れるよう支援させていただいています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者様にあわせ、お粥やペースト状の食事、食べやすい大きさにカットするなど工夫をし、食事の準備や、盛り付け、食器拭きなどお手伝いしていただいています。	献立は、法人の管理栄養士が作成し食材も配達されている。行事や年1回の家族との食事会は、利用者と献立を考え、買い物や調理を一緒に行っている。誕生会には希望のおやつを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立で、毎日、バランス良く食べていただき、1日の水分量も記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行い、週に1回、訪問歯科より往診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が維持していけるよう、個々にあった、排泄誘導時間を決めています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンを把握して昼夜共に声かけてトイレまで誘導している。3分の1程の自立している利用者は、トイレで自分の排泄記録を記入してもらい排泄状況を把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のオヤツに乳製品を食べていただき、歩行運動も促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴した日の記録を参考に、入浴の声かけを行っています。	毎日入浴可能で、基本週2回の入浴支援を行っている。本人の意向に沿って、同性介助など個々に沿った支援を行っている。入浴を拒否する時は、職員を変えたり声かけを工夫している。年1回は、家族と一緒に全員で日帰り温泉に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや、居室で落ち着ける場所をつくり、どこでも安心して過ごせるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないよう、必ず職員2人で確認をし、服用介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気の良い日は、外気浴の時間を大切に、好まれるレクリエーションに参加していただき、気分転換に努めています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、できるだけ入居者の方全員、外気浴の声かけ誘導をさせていただき、希望により散歩も行い、気分転換していただけるよう対応をしています。また、ご家族様との外出も、自由に行っているようにしています。	年間の外出行事の他に、夏場は玄関前にベンチを置いて、利用者全員で毎日外気浴を楽しんでいる。各利用者の希望に応じて、事業所の周りを散歩したり近所の家のバラ園を見学するなど外に出かける機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族様で行っており、利用者様の必要な買い物は、会社立て替えて買い物をしていきます。共に買い物へ出かけたり、職員、ご家族様が、代わりに買い物をしてきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、ホームの電話を使用いただいておりますが、ご本人用の携帯を持たれている方もいます。手紙のやり取りも、ご本人の写真を添えて、お手紙を書いていただく支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が、快適な空間で過ごせれるよう、特に室温には、気をつけており、夏の暑い日は、居室内扇風機使用し、かき氷を楽しむ工夫もしています。冬は、常にヒーターの温度に注意をし、調節を行っています。	室内は、広々とした回廊式になっている。スキー場に隣接し、窓から緑豊かな風景が眺められ四季を感じる事ができる。リビングにはテーブルと椅子、ソファなどを配置している。ソファで昼寝をするなど、各利用者の居場所が確保されている。2階のベランダにベンチやプランターを置いて、夏場は外で外気浴しやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や、各自の椅子の配置を、利用者様の状況に合わせ、調整を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使用されていた家具を持ってきていただき、利用者様が使い慣れたもので、安心して過ごせるよう工夫をしています。	広い居室にはカーテン、クローゼットが備えつけられている。ベッドや大きなソファ、テレビ、タンス、仏壇などを持ち込み、自宅に住んでいるようにゆったりと寛げる空間になっている。壁に家族の写真や色紙、利用者で作った作品を飾りそれぞれ個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者様のできる事を確認し、職員統一した支援体制で、自立した生活が送れるよう、家具の位置にも工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902104		
法人名	日総ふれあいケアサービス 株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 花みずき		
所在地	旭川市神居7条18丁目377番地		
自己評価作成日	平成27年10月3日	評価結果市町村受理日	平成27年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0192902104-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲に自然が多く、各居室の窓からは、四季折々の木々や草花を楽しむことができ、冬には隣接するスキー場を眺めることもできます。天気の良い日は大雪連峰や花火大会を見学できます。入居者が四季の移り変わりを、目で楽しむことができる景観があります。今回、新たにユニットの理念を変更しました。年数の経過とともに入居者の顔ぶれや状態にも変化が見られ、今現在に合わせた理念を、と職員が意見を出し合い、入居者が思いのままに暮らすことができるよう、理念に沿ったケアを心がけています。入居者がそれぞれの出来る事を活かす場を作り、職員と一緒に楽しみながら暮らせるよう、日々の生活リハビリの他、個別の行事や全体での行事に力を入れています。地域の方が講師となって、定期的に体操や歌の教室をホームで開いてくださっています。町内の行事にも出来る範囲で参加するよう、相互に理解が進むように、積極的に地域との交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体の理念に地域密着型を取り入れ、職員全員が目届きやすい場所に掲示しています。各フロアの理念は職員で意見を出し合意のもとで構築し、現状に合ったより良いケアを目指し、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事に参加しています。運営推進会議には毎回町内の方が参加されて、避難訓練にも立ち会うなど、相互に理解を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度の運営推進会議の場で、包括支援センターの職員の方を交え、町内の方々に認知症についての話し合いの機会を持っています。また、ホームでの取り組みを説明し、ご理解頂くよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員、地域の役員の方々、ご家族が参加され、活動報告や意見の交換をしています。要望・意見を伺いながら、サービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へは、事故があった時の報告や介護保険、生活保護の入居者様に関すること等を相談させて頂いています。地域包括支援センターの研修にも積極的に参加しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで1か月に1階話し合い、更に勉強会を行う事で職員の理解を深めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、ミーティングや勉強会で理解を深めています。虐待について掲示も行き、職員の意識づけがされるよう努めています。御家族様や外部の方も閲覧できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加できなかった職員には資料を配布し、研修内容を伝達しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、充分内容を説明しております。契約後も、ご不明な点があれば、お気軽にご連絡頂ける様、お伝えしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お気軽にご意見が頂けるように、玄関に意見箱を設置しています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の勤務内や、ミーティングの場などで、職員の意見を聞き、良い意見は反映させるようにしています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては、事前に希望をとっており、有休も気兼ねなく取れるよう調整しています。長く働く事ができるよう、職員の話聞く時間も取る様にしています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示したり、その職員が必要としている研修を勧めるなどしています。法人内では、経験年数に応じた研修を各自年二回行っており、全員が参加できるようにしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括主催の地域の研修会に参加し、他施設の方々と知り合い、情報交換をしています。自社内では管理者が集まり会議をし、情報の共有を図っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より、信頼関係の構築に努め、ご家族様や入居者様が不安ないように何度も面談を行っています。雰囲気を感じて頂くために、御本人様の見学もお勧めしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談やホームを見学された時の聞き取り時など、ご家族様の思いを把握するよう努めており、少しでも不安を取り除くように配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様とご家族様のお話を伺った上で、早急な対応が必要なケースなどを見極め対応できるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事・出来ない事を見極め。職員間でも情報の共有を行い、出来る範囲で生活の様々な場面で活躍して頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡をとり、行事への参加を呼び掛け、来訪に繋げています。受診に同行して下さる御家族様もいらっしゃるの、それが面会の機会となっているケースもあります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた教会の方々と交流されている方もいます。御本人の体調の良い時は、要望があり教会に実際に行くこともありました。来訪された方々には、お名前を伺い、後日御家族様へお知らせしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握し、孤立せずに過ごせるよう、共有スペースで過ごして頂く時間も作っています。また関係性を配慮し、座る位置などにも注意しております。良好な関係が保てるようになるまでは、職員が間に入って、関係を築くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ住み替える時は、必要な情報の提供を行い、利用者が新しい環境の中でも快適に過ごせるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	来訪時やケアプラン作成前に、意見や要望の聞き取りを御本人と御家族に行っています。意向の確認ができない入居者様には、表情や口調などから情報を得たうえで、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人や家族との面談時に聞き取ったり、担当ケアマネージャーからそれまでの情報をもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を介護記録に記入し、入居者様の快や不快を把握できるように努めております。また、排便・尿などのリズムを把握するため記録も行っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティング・ケアカンファレンスで、介護計画の評価を話しあっています。大きく状態が変化した時は担当医師や看護師、医療連携先の看護師、ご家族を交え、話し合う場を作り、プランに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で変化のあった事など、必ず記録に残しています。申送りで使用する業務日誌にも、入居者の変化等を記入し、職員間で共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診以外の通院やサービスは、本人や家族状況、要望に合わせて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事にできる範囲で参加しています。地域にある商店から嗜好品を、直接本人の部屋まで届けてもらうなど活用しています。避難訓練は町内の方にも参加して頂ける様、運営推進会議で呼び掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院を、入居後も継続して通院しています。受診先を変更する時は、病院から情報提供書をお願いし新しい医療機関に繋げ、また、必ずご家族と話し合いの上で決定しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の医療連携で、入居者の健康管理を行っており、変化があれば受診に繋げるようアドバイスももらっている。訪問看護を利用している入居者の場合は、日々の様子を訪問時に伝えており、電話でも相談できる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報は全て医療機関に提供し、その後もケースワーカーや看護師と連絡を取りながら、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意思、希望を伺い、医療連携先の看護師や主治医とも話し合い、方針を決めて対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修や、マニュアルを整備し周知徹底しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を年2回、それぞれ日中と夜間の想定で行っています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重する声掛けや対応をしています。プライバシーに配慮し、職員間では居室番号を用いて情報の共有を行うこともあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を取り入れ、外出等の行事に活かしています。日々の生活においても服装の決定など、本人の能力に応じ自己決定出来る機会を作っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のいつものペースを把握し、生活スタイルと体調に合わせた暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、毎日の髭剃りや整容整髪機を作り、気持ち良く過ごせるよう支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は本人に合わせた形態(お粥やミキサー等)で提供しています。食事の盛り付けや食器拭き、オシボリをたたむなど、食事に関することに携わる機会を作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を通して、食事量や水分量を把握し、その人に応じた調整を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促しています。自力で行えない方は、口腔用のウェットシートやスポンジ等を使用して介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせた排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が可能な限りでき、失禁が減るよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取をして頂いたり、体操を行ったりと、個々に応じた取組みをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や、外出前日に入浴日を決めている入居者もいる。本人に合わせた介助を行い、気持ち良く入浴して頂くよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し、快適に過ごせるように配慮しています。日中は思い思いの場で過ごせるようにし、身体を休める機会も作っています。夜間は居室巡回を行い、環境整備の支援等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のお薬の説明書ファイルをすぐに取り扱える場所に置いています。服薬の際は職員同士が確認しあい、介助や見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況や生活歴、性格、持病を把握し、無理のない範囲での外出や買物など、個々の楽しみごと、気分転換を支援しています。		

ふれあいの里 グループホーム 花みずき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の要望を聞き取り、外出の機会に繋げています。買物や外食、ドライブや居酒屋など、様々な場所に行く機会を作っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には居室内の金庫で保管されています。嗜好品や受診時の交通費など、支払いは自分でされています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があった時は、ご家族に取り次いでいます。事前に状況を説明し、ご家族と電話でお話する機会を作っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡に写る自分に混乱してしまう方の場合は、違和感なく鏡を覆ったり、大き目のカレンダーを貼るなどして月日の流れを意識出来るようにしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で同じテーブルを囲んで食事をしたり、居間でテレビを見たりと、思い思いの場所で過ごして頂けるように、ソファなどを配置しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具等を使い続けていけるよう、本人、ご家族と話し合いながら配置するなど工夫しています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で立ち上げられるように、ベッドに手すりをつけたり、廊下を歩行しやすいように各所に手すりがついています。トイレ等の場所がわかるよう表札をつけています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム花みずき

作成日：平成 27年 11月 1日

市町村受理日：平成 27年 11月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	以前はテーマを掲げて会議を開催していたが、家族の参加が減っており、会議の内容がホームの状況報告中心になっている。議事録も簡素化されており、質疑応答のようなやりとりが見えなくなっている。	テーマに沿った会議を開催し、参加しなくても意見を反映できる場にしていく。議事録を充実させる。	年間のテーマを決め、事前に町内や家族に伝える事によって、参加が難しい方々の意見や質問を頂戴し、会議に反映していく。議事録には参加者の発言を載せ、内容を充実させる。議事録には、次回のテーマも載せる。	1年
2	35	避難訓練は火災のみを想定し、年2回行っている。	火災だけではなく、地震・雪害について話しあいの場を設ける。	運営推進会議のテーマの一つとして災害を取り上げ、地震だけではなく、雪害対策も含めて話し合っていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。